

競 技 注 意 事 項

1 規則について

- (1) 本大会は2026年度日本陸上競技連盟規則及び「競技会における公告及び展示物に関する規則」、本大会申し合わせ事項によって行う。
- (2) 本大会出場者は（一財）熊本陸上競技協会登録者のみとする。

2 練習場及び練習について

- (1) 事故防止のため、決められた場所以外での練習やアップを禁止する。（ピロティ、通路、駐車場など）
- (2) 補助競技場での練習は、トラック競技・跳躍競技のみとする。
- (3) 砲丸投・円盤投の練習は、投てき場で行う。危険を伴うので、監督の付き添いのもと細心の注意を払うこと。
- (4) 補助競技場のレーン使用区分は、原則として次の通りとする。（別紙使用区分を参照）
 - (ア) 1・2レーンは中長距離
 - (イ) 3・4レーンは短距離
 - (ウ) 5・6・7・8レーンは男女のハードル

3 競技者の招集（コール）方法について

- (1) 招集所は全種目第4ゲート裏に設置し、シューズチェック（トラックのみ）、腰ナンバー配布後係員の指示に従い現地へ移動する。それぞれの種目のスタート場所や競技場所で最終の招集を行う。
- (2) 各種目の招集開始時刻・完了時刻は、その競技開始時刻を基準とし、下記要領で行う。

競 技 種 目		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		30分前	15分前
フィールド 競技	棒高跳	100分前	90分前
	走幅跳・三段跳・走高跳	60分前	40分前
	砲丸投・円盤投	60分前	40分前

- (3) 招集完了時刻までに第4ゲート裏に設置された招集所で、胸・背・腰ナンバー・スパイク・衣類等・競技場内への持ち込み物品などの確認を受ける。
- (4) 多種目同時出場する可能性がある場合は、多種目同時届を提出すること。
- (5) 『欠場届』『訂正届』『リレーオーダー用紙』『多種目同時出場届』はTIC（中央ゲート入り口付近）に提出する。
- (6) 招集時刻に遅れた場合、当該種目を欠場したものとして処理する。
- (7) リレーオーダー用紙は各ラウンドの第一組目の招集完了時刻60分前（競技開始時刻75分前）までに提出。用紙はTICに準備してあるもの、またはプログラム添付のものを使用する。リレーの招集は、第4ゲート裏で招集を受け、それぞれのスタート場所に移動する。低学年リレーのオーダーは1走から2年-1年-1年-2年の順とする。（学年は必ず合わせる）リレーに使用するマーカーは主催者が準備したものを使用する。
- (8) 四種競技は、その日の最初の種目に合わせて招集を行い、その後の種目は混成競技審判長の指示に従う。

4 アスリートビブスについて

- (1)すべての競技者は、ユニフォームの胸と背に番号が確実に見えるよう、配布された大きさのままつける。
 但し、走高跳・走幅跳・三段跳・棒高跳の競技者（混成競技を含む）は、胸、背部いずれか一方でよい。

5 組合せ・走路・試技等について

- (1)トラック競技は全て写真判定装置を使用する。
 (2)トラック競技決勝のレーン順は、本部より抽選で決定する。
 (3)レーンを使用する場合、1～9レーンを使用する。
 (4)短距離走のフィニッシュ後は、競技者同士の安全のために、自分の割り当てられたレーン（曲走路）を走る。フィニッシュ地点に倒れ込まない、立ち止まらない。
 (5)1000m・2000m・4000m・ハードル・4×1000mR 競技の予選はタイムレースで行い、決勝は8名（リレーは8チーム）で行う。決勝進出者の決定は1000分の1秒まで比較し選出する。それでも決定できない場合は、決勝を9名で行う。同タイムが3名以上の場合は抽選とし9名で決勝を行う。
 (6)800m、1500m・3000mは、タイムレース決勝とし、第1組に公認の好記録を持っている競技者を入れる。
 (7)800m・3000mのスタートは、グループスタートで行う。
 (8)砲丸投は本競技場で行う。円盤投は投てき場で行う。
 (9)走幅跳においては計測ラインを設け、それを越えたと思われる記録のみを計測することもある。
 (10)三段跳の踏切板は、砂場より男子は9m、女子は8mの地点に設ける。（状況により変更もある）
 (11)スタートはイングリッシュコマンドで行い、不正スタートについては、1回目の競技者から失格とする。
 但し、混成競技は2回目の競技者から失格となる。
 (12)走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記のとおりとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	6	備考	
男子走高跳	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	男子1m80	以降は3cmずつ上げる。
女子走高跳	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	女子1m45	
男四種走高	1m15 1m50	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	男子1m60	
女四種走高	1m00 1m30	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	女子1m35	
男棒高跳	1m70 2m40 3m00	1m80	1m90	2m00	2m10	2m20	2m30	すべて10cmずつ上げる。	
女棒高跳	1m50	1m60	1m70	1m80	1m90	2m00	2m10		

※走高跳・棒高跳のはじめの高さについては、協議の上、変更することもあり得る。

※四種走高跳については、最終的に1人の跳躍になった場合は、希望の高さを跳ぶことができる。

6 競技場への入退場について

- (1)選手は招集終了後、スタート場所や競技場所に各自で移動する。

7 抗議について

- (1)競技中におきた競技者の行為または順位に関する抗議は、規則146条にもとづき、正式結果発表後30分以内に、また次のラウンドが行われる種目では正式結果発表後15分以内に、本人または監督から審判長に対して口頭で申し出る。

8 表彰について

(1)各種目の表彰は、個人は第8位まで、リレー種目は第8位までとする。正式結果発表後、ただちに正面玄関ロビーに集合する。放送をしても選手が集まらない場合、時間の都合上、表彰を行うこともある。

9 更衣室について

(1)更衣は補助競技場の更衣室を使用する。

10 競技用具について

(1)競技に使用する用器具は、投てき物を含めすべて主催者が用意したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポールは個人所有のものが使用できる。ポールについては、その競技開始前に現地で跳躍審判員の検査を受け許可されたものが使用できる。

(2)フィールド競技で、助走路に使用できるマークは、主催者が用意したマーカー2個まで置くことができる。

(3)リレーで使用するマークは、主催者側が準備したものを使用する。

11 競技用シューズについて

(1)スパイクのピンの数は11本以内で、長さ9mm、走高跳は12mmを越えてはならない。また、ピンの先端の直径は4mm以内とする。(第143条②③④⑤⑥)

(2)靴底の厚さは、TR5および競技用靴規定を適用する。靴底の厚さは、TR5.2のとおりとする。(ただし、サークルから行われる投てき種目の砲丸投は任意とし20mm規定から除外)

12 その他

(1)トラック・フィールド内には、その種目の出場者・役員以外は、監督といえども立ち入らないこと。

(2)競技者は競技中、無断で競技場所を離れてはならない。

(3)1階スタンド下(ピロティ)や本部が定める立入禁止区域には絶対に立ち入らないこと。

(4)リレーに出場するメンバーのユニフォームは、原則として同一のものとする。

第53回全日本中学校陸上競技選手権大会標準記録(追い風参考記録は対象としない)

男子(13種目)				女子(10種目)			
種目	標準記録	種目	標準記録	種目	標準記録	種目	標準記録
100m	11"05	走高跳	1m85	100m	12"40	走高跳	1m60
200m	22"50	棒高跳	4m00	200m	25"80	走幅跳	5m40
400m	51"00	走幅跳	6m60	800m	2'15"50	砲丸投	12m50
800m	1'59"00	砲丸投	13m40	1500m	4'38"00	四種競技	2650点
1500m	4'06"50	四種競技	2580点	100mH	14"50	4×100mリレー	各都道府県 1チーム
3000m	8'55"50	4×100mリレー	各都道府県 1チーム				
110mH	14"60						

【全国大会に出場をする生徒・監督の皆様へ】

本大会は全日本中学校陸上競技大会標準記録突破のための大会となります。今回の『全日本中学校通信陸上競技大会熊本県大会』で標準記録を突破した選手・監督は、7月に行われる『熊本県中学校総合体育大会陸上競技大会』の2日目(7月19日)終了後に説明会を行います。